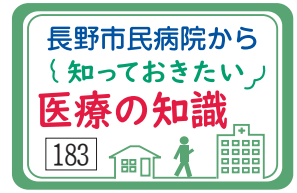




関野 陽子

手術や検査が決まったとき、「〇〇という薬は△日前から飲まないでください」と言われたことはありませんか。なぜその薬を中止するのか疑問を感じたり、やめる薬が分かんず困ったりしたことのある人もいらっしゃるかもしれません。今回は手術



や検査の前の休薬について説明します。

代表は血液サラサラ薬

手術や検査を受ける際に注意が必要な薬の代表は、抗血栓薬です。血栓とは「血のかたまり」のことで脳梗塞

や心筋梗塞の原因となります。喫煙や飲酒などの生活習慣、高血圧、脂質異常症、糖尿病などによって引き起こされます。このように血栓症を起こしやすくなる血液を「ドロドロの血液」とします。

いったん「ドロドロの血液」になってしまうと改善に時間がかかるため、血液が固まり

にくくなる薬が処方されます。これが抗血栓薬です。薬の作用によって抗血小板薬や抗凝固薬などがありますが、

ここでひとまず「血液サラサラ薬」として「血栓」として「止血」を促す。

血液サラサラ薬を飲むと、術後の経過に支障が出ます。内視

手術・検査前の休薬



鏡的大腸ポリープ切除術でも、切った部分から大出血を来すことがあります。このように出血を伴う医療行為では、血液サラサラ薬の休薬が必要です。

逆に、血栓ができやすい薬も注意が必要です。女性ホルモン製剤（経口避妊薬を含む）には、血液を固まりやすくする作用があります。骨粗しょう症薬にも同じような働きをする薬があります。術後など長い期間、体を動かさない状態にある人は、血栓のリスクが高くなるため、これらの休薬

女性ホルモン製剤も

また、CT検査や心臓力テール検査では造影剤を使いますが、一部の糖尿病薬は造影剤を併用すると重い副作用が出ることもあるため休薬が必要です。

手術や検査前の休薬は、このように重い副作用を防ぐために行います。ただ、必要以上に休薬すると脳梗塞になったり、高血糖の症状が出たり、元の病気を悪化させたりするリスクがあります。

医師は、個々の患者の状態に基づいて処方や休薬を判断しています。手術や検査が決まったら、服用している薬について医師や薬剤師とよく相談してください。

副作用を防ぐためよく相談を

薬剤部薬剤科主査(薬剤師)